

# 金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

## わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



# 高齢ドライバー 衰え確かめて

年初、2018年の交通事故の死者数は3532人で、統計を取り始めた1948年以来最低だったとの報道がありました。事故件数も減少傾向とのこと。懸命な取り組みが功を奏しているのでしょうか、ゼロではないことを忘れてはなりません。

この中で半数以上の1966人が65歳以上の高齢者です。被害に遭うことの多い高齢者ですが、高齢運転者による事故も目立ちます。つい先だって東京の池袋で高齢者による痛ましい交通事故があり、母親と幼児が亡くなりました。

一瞬にして最愛の伴侶、そして子供さんを「くす悲しみ」、「生き地獄のような日々」といふ言葉に、なんともやがきれない思いでニュースをご覧になった方も多いと思います。

池袋の事故を起こした87歳が退院した後の映像を見ました。けがの影響もあるとは思いますが、かなりおぼつかない足取りでした。普通免許は18歳以上でないと取得できないのですから、ある年齢を超えると免許の返納ではなく、取り消す検討が必要かもしれませんね。

年を取ると、視覚・聴覚・

嗅覚・味覚・触覚、いわゆる五感が衰えます。加えて運動能力や筋力、反射神経やバランス感覚も低下し、なにより集中力が持続しません。慣れた道路、慣れた車、そして自分は運転がうまいという思い込み、衰えに気づこうとせず、自分だけは大丈夫という過信があるのでしょうか。

かく言う私も69歳。来春免許の更新を迎えます。4年前に「次の更新は70歳、高齢者講習が必要」と分かっていましたが、早いものです。

毎日通勤や仕事に車を使っています。免許を取得して半世紀近く。信号で停止中にぶ

つげられたことはありますが、事故は起こしていません。しかし、間違ひなく年齢は重ねています。

とっさの判断と対応が求められる場面で、どのように動くかを心に刻みながら運転したいと思います。幼児らが散歩しているところに出合うと、いつも以上に緊張します。子どもたちの笑顔を消さないようにしなければなりません。

過信はないつもりですが、日常的に車に乗っているわけですから、「チャレンジ講習」+特定任意高齢者講習に挑戦しようと思っています。加齢の影響を見るため実際に車に乗って走行、バスしたら座学講習や適性検査を受けるもので、「高齢者講習」の代わりにもなるものです。自分の身体機能が運転に影響を及ぼしていないかどうか、じっくり確認してみます。